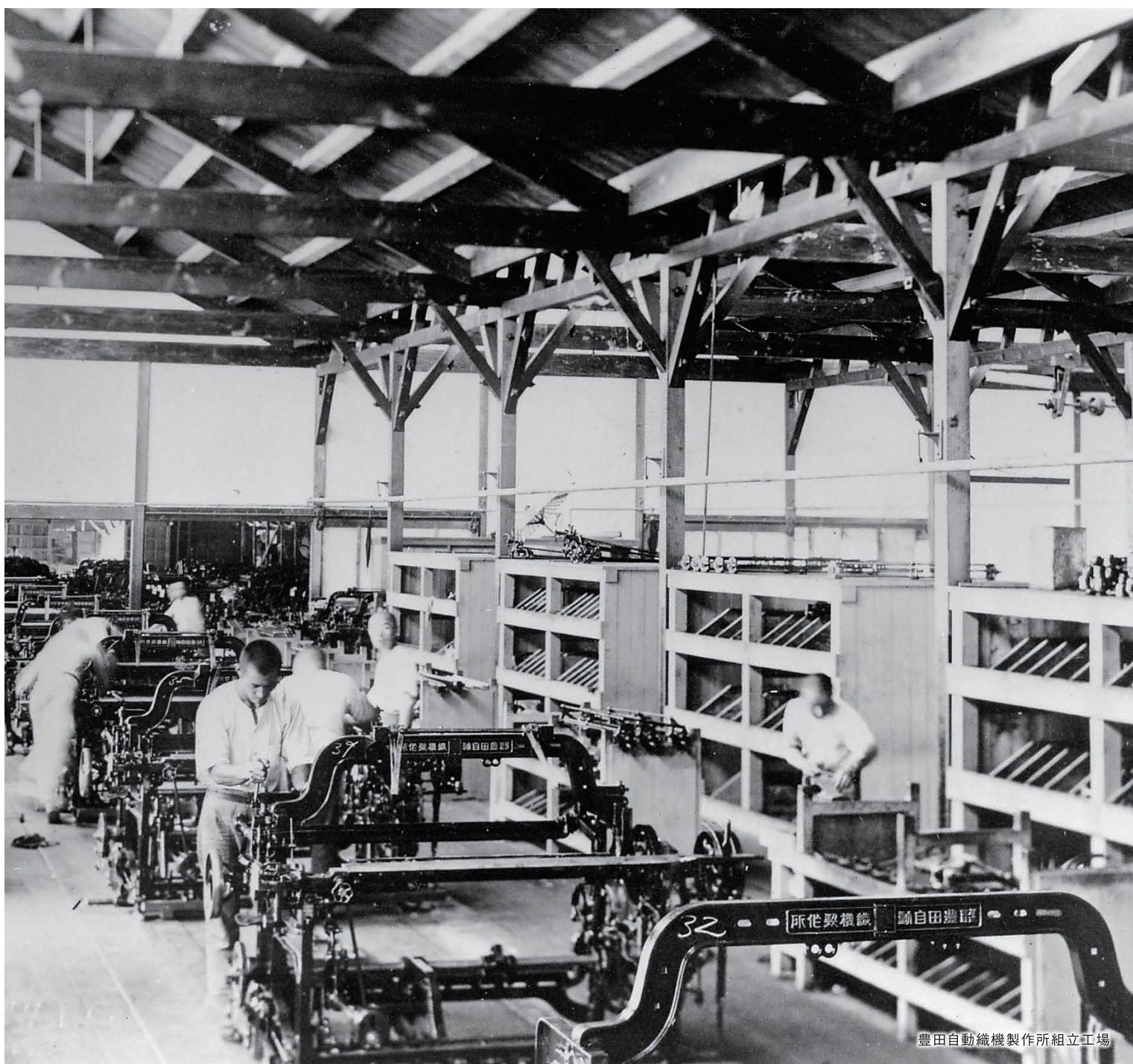


# 「研究と創造の精神」と「モノづくり」 トヨタが作り

Information of Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology

特集 「温源知新」豊田佐吉生誕150周年記念

Vol. 77



豊田自動織機製作所組立工場



トヨタ産業技術記念館

豊田佐吉生誕  
150周年  
記念特集

# 温源知新

研究と創造の生涯～佐吉の志と、それを支えた人々～



—————\* 第3回(完) \*—————

## 「完成の頂」

歐米視察によって自らの発明に自信を取り戻した佐吉は、帰国後、自立による自動織機の完成をめざすため、豊田自働織布工場を設立。さらに、織機改良促進の上で、使用する糸品質を安定させなければならぬと紡績工場を増設し、その後、豊田紡織株式会社(以下、豊田紡織(株))を創設します。しかし、自動織機の完成が間近になって豊田式織機株式会社(以下、豊田式織機(株))<sup>\*1</sup>との特許紛争に巻き込まれます。佐吉はこの窮地にチーム力を結集して立ち向かうこととなります。



55歳頃の佐吉

### 豊田式織機株式会社との確執が再燃

1923(大正12)年、自動織機を実際に工場で使用した場合に生じるあらゆる問題を検討するため、愛知県刈谷町(現在の刈谷市)に自動織機試験工場を建設。まず200台の自動織機を据え付け、試験運転を開始します。さらに、本社工場の普通織機1,008台を自動織機に入れ替える計画を立てます。

「完全なる営業的試験を行うにあらざれば、発明の真価を世間にうべからず」

試験費は多額に上り、大きな冒険でしたが、徹底的に試験を行おうとの覚悟の上です。しかし、ここで思いもよらないことが起きます。製造は従来より豊田式織機(株)に依頼していましたが、1924(大正13)年、豊田式織機(株)が自動織機の製造を断ってきたのです。

実は、佐吉は豊田式織機(株)設立に際し、自働杼換装置などの特許一式の「特許権譲渡契約」を会社と締結しましたが、名義は佐吉個人のままでした。自働杼換装置の特許申請から15年が経過<sup>\*2</sup>した1924(大正13)年、佐吉は特許継続申請を行いましたが、その実施権をめぐり両者の見解の相違が表面化し、特許紛争に発展。その余波を受けての出来事でした。そのため、皮肉なことに佐吉は自身の特許に抵触しない新しい杼換装置の開発と、製作を断られた織機本体を自ら製作する必要に迫られたのです。

\*1 豊田式織機株式会社  
1907年に資本金100万円で設立された。佐吉は常務取締役技師長に就任していた。現在は豊和工業株式会社として工作機械の製造販売を中心に事業展開している。

\*2 当時、特許の有効期限は申請後、15年間でした。

## 無停止杼換式豊田自動織機（G型）が完成

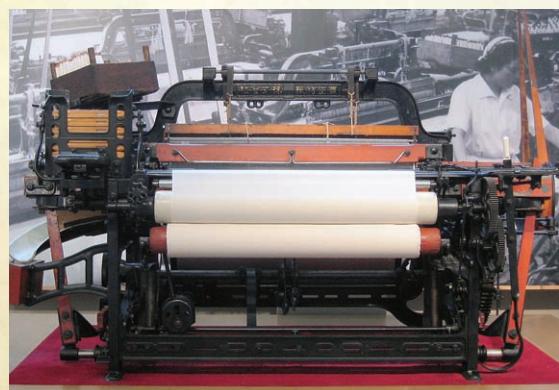
窮地に立たされた佐吉は、鈴木利蔵や岡部岩太郎をはじめとする部下たちとともに、この逆境をバネに、昼夜間わず一丸となって働き、研究開発は一気に加速します。佐吉を中心とした開発チームのここ一番での底力は定評のあるところで、わずか2ヶ月の間に十数種類の新しい発明が次々と生まれ、佐吉が生涯かけて発明に取り組んだ無停止杼換式自動織機（以下、G型自動織機）が完成しました。この自動織機は、高速回転中に少しもスピードを落とさず、また杼（シャットル）を傷つけることなく、円滑に杼を交換する画期的なもので、後に英國・プラット社<sup>※3</sup>の技術者から「マジックルーム（魔法の織機）」と称賛されたものです。

一方、自動織機本体の鋳物部分は、かつて佐吉のもとで鋳物を担当していた旧知の久保田長太郎<sup>※4</sup>に製作を依頼し、名古屋市日置町にある知人の鉄工場を借り受けて製作。豊田の事業の中に初めて鋳物の技術が導入されたのはこの時でした。佐吉の信念である自力主義を追求する上で、自前の鋳物工場を持って織機を製作することは、必然でした。災い転じて福となす。豊田式織機（株）に織機製作を断られたからこそ実現できた成功ともいえます。そして1925（大正14）年11月、G型自動織機の製品第1号が誕生。1903（明治36）年に初めて自動杼換式織機（T式）を発明してから22年後、佐吉の夢である「完全なる自動織機」がついに完成したのです。

「予が今日までの生涯は、随分波乱曲折ありて戦苦闘。多くは失敗の歴史なりとす」

これは自身の発明一筋の生涯を振り返って佐吉が語った言葉です。

その後、刈谷に新工場が完成するまでの約1年間、この日置工場でG型自動織機を1,203台製作します。



G型自動織機1号機（当館展示物）



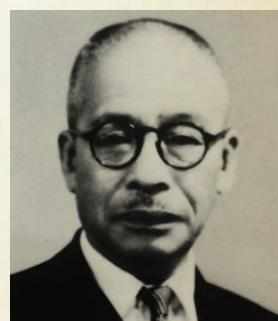
鈴木 利蔵



岡部 岩太郎

### ※3 プラット社

当時、世界を代表する英國の大手織維機械メーカー。1770年創業。1922年1月には喜一郎が英國視察の際、約2週間にわたって紡績機械の製造工程と製造方法に関する研修を受けている。織維産業後退の波の中で1982年廃業。



久保田 長太郎

### ※4 久保田長太郎

日本の代表的鋳造機械メーカー・新東工業（株）の創始者。1909（明治42）年5月、豊田式織機（株）に入社し鋳物工となり、佐吉と出会い薫陶を受ける。その後、豊田式織機（株）から独立、鋳物工場を自営していたが、佐吉から鋳物製作の依頼を引き受ける。



豊田利三郎



児玉一造



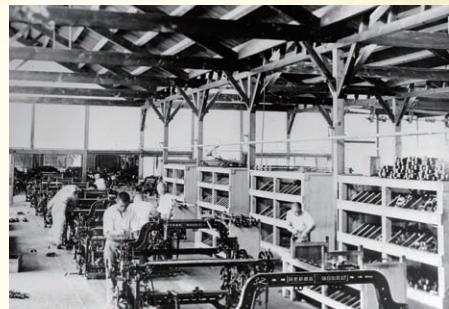
1926年設立の豊田自動織機製作所  
本社事務所



勲三等瑞宝章受章当時の佐吉

## 株式会社豊田自動織機製作所<sup>\*5</sup>を設立

日置工場での自動織機製作が順調に進むようになり、佐吉と娘婿の利三郎は、自動織機が安定的に稼働するようになってきたことを踏まえ、1926(大正15)年3月、豊田紡織(株)刈谷試験工場を豊田紡織(株)刈谷工場に改称、新会社の設立に向けて着々と準備を進め、鋳物工場の建設を久保田長太郎に一任します。



(株)豊田自動織機製作所組立工場

同年11月18日、豊田紡織(株)刈谷工場の隣地に、自動織機を製造・販売する会社として(株)豊田自動織機製作所を設立します。創立総会は豊田紡織(株)本社(トヨタ産業技術記念館の現在地)において開催されました。定款の中に「紡績、織布に関する機械およびその他の機械を製造し、これを販売すること」に加えて「右に関する発明研究をなすこと」と明記して業種に独特の先進性を持たせました。これは自動織機を完成させるまで、幾度か発明と當利の矛盾に悩されてきた佐吉の苦い体験から生まれたもので、他に例を見ないものです。社長には利三郎、常務には喜一郎がそれぞれ就任。利三郎の兄の児玉一造も個人株主として資本参加しました。

豊田自動織機製作所の立ち上がりは順調でした。販売が開始された最初の1年で6,000台あまりの注文が殺到。当時、綿紡織業界は経営の合理化が叫ばれていて、新銳織機を導入することで省人化することが急務でした。さらに1929(昭和4)年7月には女性や年少者の深夜労働を禁止する工場法が施行されることとなっていて、時代のニーズを捉えていたのです。

## プラット社に特許権を譲渡

「わしは織機で国のために尽くした。お前は自動車を作つて国のために尽くせ」

これは1927(昭和2)年11月、佐吉が勲三等瑞宝章を受章した時、息子・喜一郎に送った言葉です。佐吉には、かつて視察で訪れたアメリカで自動車が颶爽と走っている光景が目に焼きついていて、喜一郎に「技術者として常に時流に先んずべし」という自らの信念を託して新事業進出へと背中を押したのです。

\*5

以下(株)豊田自動織機製作所

G型自動織機の評判は、国内外で大変な反響を呼び、世界一と評されました。なかでも、当時の代表的な織機メーカーであった英國のプラット社にとっては重大な関心事でした。同社の主要な市場であったインドにG型自動織機が輸出されたのを契機に、日本に調査団を派遣し、G型自動織機の優秀性を確認し特許権の買収を決意。三井物産ロンドン支店を通じて交渉が進められます。そして1929(昭和4)年12月、喜一郎が英國に渡り、プラット社と自動織機の特許権の譲渡契約を締結(10万ポンド、日本円で100万円、現在の価値で数十億円)。これはG型自動織機が世界的に認められた証であり、予想を超えた形で完成の頂を極めることとなりました。なお、譲渡契約は日米中以外の地域への独占的製造販売権の付与です。そして、喜一郎は、その特許権譲渡の実績が大きな自信となり、佐吉の夢でもあった自動車事業への進出に向けて動き出すこととなるのです。

## 佐吉の志は永遠に

1930(昭和5)年10月30日、佐吉は、自動車工業への進出を見ることなく、63年の生涯を静かに閉じました。

佐吉の5回目の命日にあたる1935(昭和10)年10月30日には、豊田綱領を制定し、豊田の事業に従事する全従業員が佐吉の精神を仕事に対する日常の心構えとすることとしました。ちょうどG1型トラック発売を間近に控え、自動車事業をやり遂げるための心構えを佐吉の精神に照らし合わせて示したものともいえるでしょう。豊田綱領は、現在もトヨタグループの経営の根底に脈々と流れ、佐吉の研究と創造の精神は、今も息づいています。

## 豊田綱領

- 一、上下一致、至誠業務に服し、産業報國の実を擧べし
- 一、研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし
- 一、華美を戒め、質実剛健たるべし
- 一、温情友愛の精神を發揮し、家庭的美風を作興すべし
- 一、神仏を尊崇し、報恩感謝の生活を為すべし



豊田自動織機製作所を訪れた英國の視察団



プラット社との特許権譲渡契約記念写真  
(喜一郎は前列右)

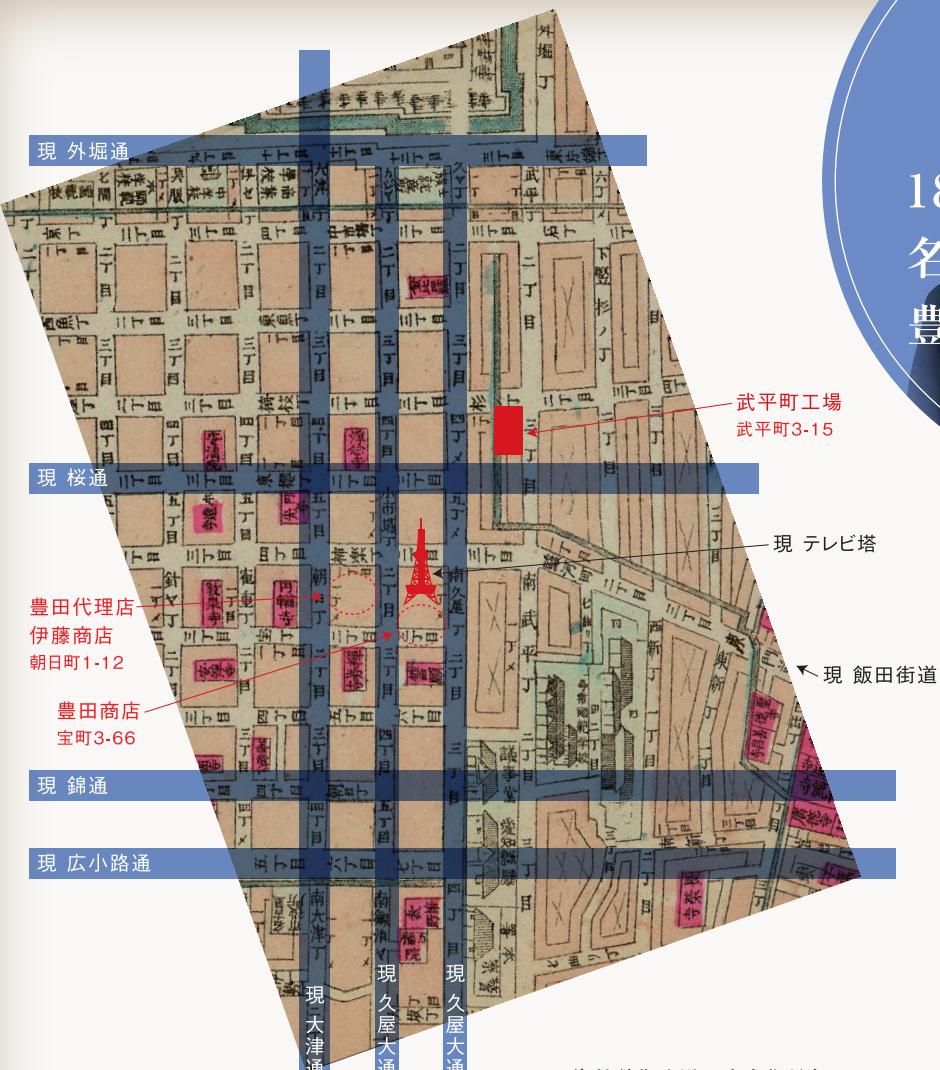
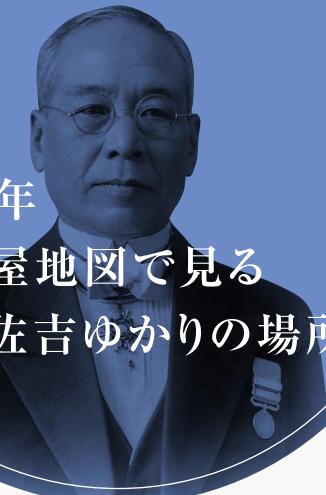


佐吉逝去 ※出典:「豊田佐吉 天馬無限」



旧豊田紡織本社内佐吉胸像

## 1895年 名古屋地図で見る 豊田佐吉ゆかりの場所



資料所蔵：国際日本文化研究センター

糸操返機の販売に取り組んだ豊田代理店伊藤商店（1894年）、その翌年に設けた豊田商店が存在した一角を図示。（委細位置は不明）  
1897年には武平町工場を増設し、日本初の動力織機である豊田式汽力織機の製造を行った。

## 豊田佐吉の胸像について

当胸像は、豊田佐吉の妻 浅子が1935年に制作したもので、戦後間もない1949年、当時の江西小学校内に設置されました。

江西学区創立25周年事業の一環として、豊田利三郎より贈られたものです。

「日本復興を進めるために、子どもたちが、佐吉のようにあきらめることなく、チャレンジしていく大人に育って欲しいという強い思いが豊田家を動かした。」\*と言われています。

胸像はその後60年以上にわたり小学校の皆さんに見守られてきましたが、2017年4月、学びの場が新しい校舎へ移されるのを機に江西学区より当館へ寄贈いただきました。

\*出典：「広報なごや 平成24年6月号学区だより」



旧江西小学校 ▶  
(名古屋市立なごや小学校旧西校舎)  
に設置されていた豊田佐吉の胸像



開催期間 10月7日(土)～12月10日(日)

場所／トヨタ産業技術記念館特設会場

あなたのそばにある、17社の技術と取り組み

【トヨタグループ】

(株)豊田自動織機、トヨタ自動車(株)、愛知製鋼(株)、(株)ジェイテクト、トヨタ車体(株)、豊田通商(株)、  
アイシン精機(株)、(株)デンソー、トヨタ紡織(株)、東和不動産(株)、(株)豊田中央研究所、トヨタ自動車東日本(株)、  
豊田合成(株)、日野自動車(株)、ダイハツ工業(株)、トヨタホーム(株)、トヨタ自動車九州(株)

豊田佐吉は「国家社会を豊かにし、人々を幸せにする」という大きな志を抱いていました。今回は私たちの日常の暮らしのさまざまな場面におけるトヨタグループの技術や取り組みをご覧いただき、佐吉の志が今日のトヨタグループ各社に引き継がれていることをご紹介いたします。

第I部 佐吉の志と、これまで

佐吉の志とは何か、そしてその志がどのように引き継がれ、トヨタグループ各社へとつながるのか、その変遷を紹介します。

第II部 引き継がれる志、今、そして未来へ

トヨタグループ各社が保有する人々の生活を豊かにするモノ・コトを、使い手側に立った暮らしの場面に則して展示紹介します。



豊田佐吉生誕150周年特別展

豊田佐吉と喜一郎～受け継がれる「研究と創造の精神」～

開催期間 11月3日(金・祝)～26日(日) ※11月9日(木)・16日(木)・24日(金)は休み

場所／湖西市アメニティプラザ サブアリーナ(静岡県湖西市吉美3294番地の48／TEL:053-573-0777)  
主催: 豊田佐吉記念館 共催: 湖西市

入場無料

今年は1867(慶応3)年2月14日に豊田佐吉が湖西の地に生まれてから150年になります。

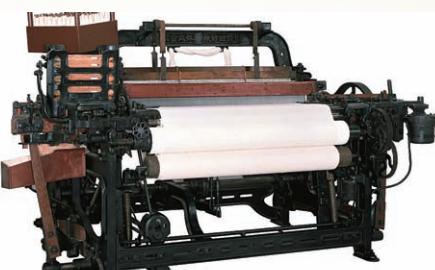
これを記念して、同じく湖西の地に生まれた長男喜一郎とともに、二人の生涯をたどる展示会を開催いたします。



豊田 佐吉



豊田 喜一郎



# 開発物語 プリウス誕生20周年とMIRAI Story 「常に時流に先んずべし」を継承



初代プリウス  
(当館展示車両)

「21世紀に間に合いました」。これは1997年に初代プリウスが発売された時の広告のキャッチコピーです。クルマはガソリンや軽油で走るのが当たり前でしたが世界に先駆けて「電気モーターを併用する」という考え方を量産車に導入することに踏み切りました。これこそが佐吉が残した「常に時流に先んずべし」という言葉を継承した開発思想ではないでしょうか。そしてこれが、現在に至るトヨタの環境技術の先進性を強く印象づけることとなりました。

1990年代前半は、1992年の地球サミットをきっかけに、地球環境保護が叫ばれ始めた時代です。石油燃料のひっ迫・枯渇という「エネルギー問題」と、異常気象を引き起こす原因とも考えられる「地球温暖化」が問題になりました。

そこで、トヨタは「使うガソリンを少なくする」すなわち「排出されるCO<sub>2</sub>の総量を減らす」技術を高めていき、その結果誕生したクルマが、1997年12月発売の世界初の量産ハイブリッド乗用車(以下、HV)「プリウス」です。「～に先駆けて」を意味するラテン語から命名されました。トヨタの中でハイブリッドという概念は、すでに1960年代からトヨタの研究開発部内にあり、当時はガスタービンエンジンで発電してモーターで走行するシステムから開発がスタート。1960年代後半には、トヨタ・スポーツ800のガスタービン・ハイブリッド実験車を製作しました。しかし、まだ2次電池(蓄電池)の性能がHVとしての要件を満たすことができず、1980年代に開発はやむを得ず中断しました。1993年には

「21世紀のクルマ」に関する議論が高まり、「G21プロジェクト」が発足し、目標の1つに「燃費を既存車の2倍にする」ことが掲げられました。その手段としてハイブリッドシステムが採用され、開発が本格化していきました。開発陣は「HVを開発することは必ず将来の役に立つ」という志を持ってプロジェクトに臨み、電池技術を一層高めるとともに、制御システムを含めたハイブリッドシステムの開発に成功し、プリウス発売に至ります。その後、2003年9月の2代目発売、2009年5月の3代目発売、2012年1月のPHV(プラグインハイブリッド車)発売、2015年12月の4代目発売を経て、2017年1月には、プリウスを含めたHVグローバル累計販売台数1,000万台を達成。これによって、CO<sub>2</sub>排出抑制効果は約7,700万トン、ガソリン消費抑制量は約2,900万キロリットルと試算されています。2017年12月で発売20周年を迎えるプリウスは、今や「エコカーの代名詞」であり、プリウスの普及とともにHVという新しいジャンルが定着したといえるでしょう。

また、'90年代に環境問題に対して提起されたもう一つの回答が、FCV(燃料電池自動車)、つまり、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を一切出さずに走る究極のエコカーです。トヨタでは、1992年にEV(電気自動車)開発部を設置し、EVとともにFCVの開発にも着手。水素吸蔵合金やメタノールから水素を取り出す研究の過程を経て、2001年に2次電池を搭載し、HVの制御技術を採用した試作車を開発した後、



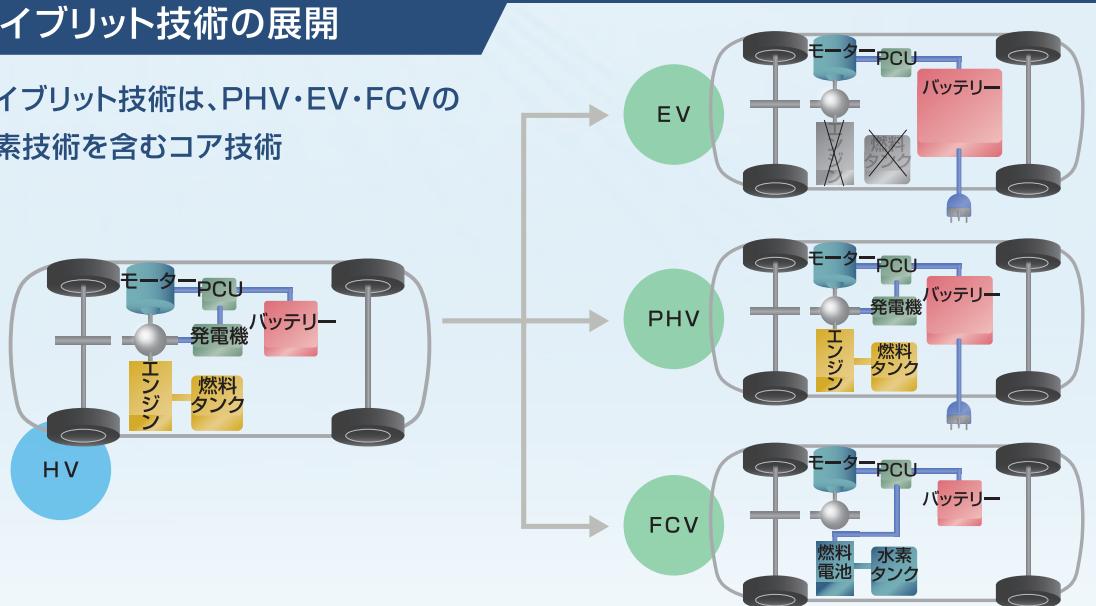
2002年12月には自社開発の燃料電池「トヨタFC STACK」を搭載したトヨタFCVを日米で限定発売し、実用化の第一歩を踏み出しました。そしてさらに試験を重ねてその技術を熟成させることで、量産車の実現に成功。自らが発電して走るFCVは、燃料電池技術とプリウスで培った制御システムを融合した「トヨタ フューエルセルシステム(TFCS)」を採用することにより、内燃機関に比べて高いエネルギー効率を実現するとともに、3分程度の水素の充填で走行距離約650km (JC08モード走行パターンによるトヨタ測定値) を

達成するなど、ガソリン車と同等の利便性を実現。日本語の未来に由来する「MIRAI」と名づけられ、初代プリウス発売から17年後の2014年12月に発売されました。

「常に時流に先んずべし」。これは佐吉の開発姿勢の一つです。その信念が早期の商品化を生み、絶えざる改善のもと、商品力の強化を加速させます。この精神は、今もトヨタグループに連綿と受け継がれています。

## ハイブリット技術の展開

ハイブリット技術は、PHV・EV・FCVの要素技術を含むコア技術



6月10日(土)・11日(日)

## 「ノリノリウィークエンド」を開催

6月11日に開館23周年を迎え、ご家族揃ってお楽しみいただける特別イベントを開催。

毎年恒例のトヨダAA型乗用車・G1型トラックの走行披露、初代クラウン・カローラ・セリカの同乗試乗会は天候に恵まれ、無事に開催することができました。文字書き人形はじめ、からくり人形の実演など新たなプログラムも加わり、2日間にわたり、大勢の方々で賑わいました。



7月23日(日)

## 第5回さんぎ大学を開催

「アナログメカの魅力～先人たちの知恵と工夫のモノづくり～」というタイトルで、モノづくりの先人たちが考案、改良してきたさまざまなメカニズムについて当館学芸員の木村が実演を交えてお話ししました。

また、当館自動車館では加熱炉である粉炭炉が展示されています。今回はその粉炭炉に焦点をあて、金属熱処理設備メーカー新和実業(株)の橋本代表取締役を講師にお招きし、設備とその技術史について興味深いお話を頂きました。

次のさんぎ大学にも、ご期待ください。



8月19日(土)・20日(日)

## 「夏休み 発見☆体験ミュージアム」を開催

小中学生を対象にした夏の恒例イベント「夏休み 発見☆体験ミュージアム」を8月19日、20日の2日間にわたり大ホールで開催しました。

100～200倍の顕微鏡をつくって綿の繊維などを観察する持ち運びできる「カード顕微鏡」、プロペラが巻き起こす風の力で前進するモーターカーを作成する「ジェットエンジンカー」、組み紐をつくり髪留めやブレスレットにアレンジする「カラフル☆組み紐」の3プログラムを体験していただきました。

会場は連日たくさんの親子連れで大賑わい。子ども達は根気よく取り組み、時には親子で協力して完成させると達成感いっぱい!笑顔が溢れる2日間となりました。



## 世界最大級の旅行口コミサイト 「トリップアドバイザー」

旅好きの口コミで選ぶ!「工場見学＆社会見学ランキング2017」で第1位をいただき、お陰様で3年連続第1位の受賞となりました。



1位	トヨタ産業技術記念館
2位	JAL工場見学 Sky Museum
3位	サントリー山崎蒸溜所
4位	鉄道博物館
5位	ニッカウヰスキー余市蒸溜所

## スタッフレポート STAFF REPORT

Vol.10

お客様をお迎えする設備の運転・保守は地味だけど、とても大切なこと。

今回は、「原動力員室」からのスタッフレポートです。

- 館内の照明・空調をはじめとする設備全般の運転・保守が主な業務です。
- 開館日には設備の運転状態の点検や空調の温度調節を行い、また休館日には故障した設備の修繕や定期メンテナンスなどを行うことで、お客様に安全・快適な環境でご見学いただけるよう努めています。
- 数年前に館内が大雨による浸水被害に遭った際に、翌日の開館に向けて他のスタッフと一緒にモップ片手に排水作業も行いました。
- お客様と直接接する機会は少ない私たちですが、開館時には館内を回っており、館内の道案内は出来ますので、お困りの際には気軽にお声掛けください。



### 布の有効活用でオリジナル商品を制作



## 復刻

## かわら版 vol. 3

このコーナーでは埋もれている歴史にスポットライトを当てて紹介しています。

### 「THE COTTON INDUSTRY OF JAPAN AND CHINA」(アルノ・S・ピアス著)

「全般的な前置きの言葉」より P.11~22 \*当館図書室所蔵 「赤字」部分は原典(英文)を翻訳

#### 解説

昭和の初期、日本の織維産業は当時世界一位だった英國をあっという間に追い越していきました。1928年、その秘密を解明しようとマン彻スター紡績協会から来日した調査団が当時の日中の織維産業の実態を緻密にまとめた報告書。その全般的な前置きの言葉には、このように記述されています。

「我々の多くは、日本人は単なる模倣者と考えてきた。しかし、そのような言葉は現在の日本には当てはまらない」

また、数字に基づく統計も多用しながら、当時の日本の実力を、客観的に描いており、

「技術革新に関しては豊田の自動織機とその他いくらかの装置について言及しなければならない」と記し、G型自動織機の写真も挿入されていました。1929年プラット社への特許権譲渡の遠因にもなっている当時のベストセラーです。

# INFORMATION

都合により、変更させていただく場合がございます。詳しくはトヨタ産業技術記念館までお問い合わせ下さい。

## 週末 Workshop ワークショップ



次世代を担う子どもたちが「モノづくり」に興味を持ち、豊かな創造性を育むきっかけとしていただきたい各種プログラムを用意。ぜひご参加ください。

受付  
期間

11月開催分 10/1(日)～10/12(木)  
12月開催分 11/1(水)～11/14(火)

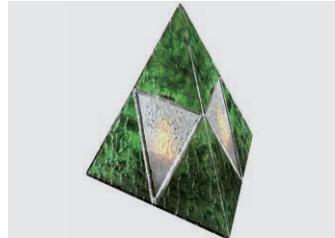
他、多数プログラムを開催

参加申し込みはホームページから  
トヨタ産業技術記念館

検索

参加費 500円(入場料別途必要) 問い合わせ 052-551-6003

参加希望者が定員を上回る場合、抽選となります。詳細はホームページをご覧ください。



11/5日 OEKAKIミシン体験♪  
オリジナルランチョンマットを  
つくろう

12/9土 たま口ボをつくろう

12/23土 七色の花束☆  
光センサーファイバーブーケ

12/24日 ステンドグラスの  
ツリーランプ★

### ミュージアム ショップ

#### It's a Fruitea (フルーティー)

- ・スタンダードパック5袋入り  
¥648(税込)
- ・木箱20袋入り  
¥3,024(税込)



覚王山の老舗紅茶専門店「えいごく屋」との共同開発によって、今年7月新たに誕生しました。厳選された良質な茶葉と100%無添加の国産ドライフルーツを使用した風味豊かな紅茶を是非ご賞味ください。

#### 「赤れんが便り」読者アンケートにご協力ください!

当館では、より魅力的な「赤れんが便り」を目指し、読者アンケートを実施いたします。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「PILOT製オリジナルシャープペンシル」をプレゼントいたします。

●アンケートは、パソコン、スマートフォンからご回答ください。

<https://www.tcmit.org/form/161001survey/>



### RESTAURANT Brick Age

レトロでシックな赤れんがの空間で、  
シェフが腕を振ったメニューをお楽しみいただけます。



静岡県産の  
鮮魚を使用した  
SAKICHIランチ  
¥1,500  
(税込)

「SAKICHIランチ」第2弾販売中! ドライフルーツ入り紅茶「フルーティー」380円(税込)



【営業時間】11:00～17:00(16:30ラストオーダー) 【TEL】052-551-6243

※館内ホールご利用時の団体様用お弁当も承ります。

※17:00以降貸切パーティも可能です。立食・着席・フリードリンクなど、ご要望に応じます。



無停止杼換式豊田自動織機(G型)



トヨダスタンダードセダンAA型乗用車



赤れんが便り

Vol.77 発行日/2017(平成29)年10月

編集・発行/トヨタ産業技術記念館

### ご案内

- 開館時間／9:30～17:00(入場受付は16:30まで)
- 休館日／月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
- 入場料／大人500円・中高生300円・小学生200円
- ※団体割引あり
- ※学校行事での入場は半額(小学生・引率の先生は無料)
- ※65歳以上の方は無料
- ※障害者手帳をお持ちのご本人とその付添の方1名は無料

### 交通

- 名鉄／名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分
- 地下鉄／東山線「亀島駅」下車、徒歩10分
- 市バス／名古屋駅バスタークニマル5番のりば  
「名古屋駅前行(循環)」「トヨタ産業技術記念館」下車、徒歩3分
- なごや観光ルートバス「メーラー」／名古屋駅バスターミナル11番のりば  
「トヨタ産業技術記念館」(敷地内)下車すぐ
- 無料駐車場(乗用車210台、大型バス10台)

トヨタ産業技術記念館  
〒451-0051 名古屋市西区則武新町4丁目1番35号  
TEL:052-551-6115 FAX:052-551-6199

f  
フォロワー募集中!



Webサイトは  
こちら!  
<http://www.tcmit.org/>

